

第10回図書館総合展/第3回IRIが選ぶ「Library of the Year」パネル3

第3回 IRIが選ぶ「Library of the Year 2008」
恵庭市立図書館

推薦文



読書の重要性と図書館

21世紀を迎えて読書の重要性が再認識されるようになった。21世紀は情報通信ネットワークを基盤とした情報が満ち溢れる社会が到来する。そこでは、情報を収集、評価して自らの創造的な行為に生かすことが求められる。自己判断・自己責任の時代の到来でもある。そうした社会で創造的に生きるためには、情報を判断、評価して、活用できる主体を作らなくてはならない。読書はそのために不可欠なものである。ヨーロッパ旧西側諸国では読書の環境整備をすすめ、本と人を結びつける試みをさまざまな形で繰り返している。フィンランドでは、国民一人当たりの公共図書館の貸出冊数(点数)が22冊(点)をこえているが、それはこうした試みの結果と言える。



読書コミュニティづくりと恵庭市立図書館

わが国でも近年、読書の重要性への認識が広まり、「子どもの読書活動の推進に関する法律」、「文字・活字文化振興法」が制定・公布され、国としても取り組みが進められている。先の国会では2010年を「国民読書年」とする国会決議も採択されている。

恵庭市では「読書コミュニティのまちづくり」が進められている。その中心にあるのが市立図書館である。組織的にも、活動的にも市立図書館が中心になっている。この点がまず大きく評価されよう。市立図書館は、配本システム運行により市立図書館と学校図書館双方併せた36万冊の資料共有化を実現し、全市民的な図書資源の共有利用を進めている。図書システムの連携によって読書と学習を支援し、ボランティアを育成すると共に、司書教諭、学校(図書館)司書への協力・支援を行っている。こうした支援協力活動に力を割きながら、市立図書館自体としての活動も着実にレベルアップをはかっており、19年度の貸出し冊数は市民一人当たり8.53冊で、これは前年より1.04冊の増加であった。レファレンス件数も19,098件と一定の成果をあげている。

恵庭市はブックスタートを日本で初めて実施した市としても知られている。現在ではさらにこれを発展させ、2007年から1歳6か月児健診時にブックスタートプラスに取り組んでいる。図書ボランティアも31団体約400人を数えている。

恵庭市では市立図書館を中心として、家庭、幼稚園・保育所、小学校・中学校、高等学校・大学、地域が一体となってすべての市民が豊かな人間性を育むことができる地域づくりに取り組んでいる。こうした取り組みは、読書の重要性を再認識して、取り組もうとしているすべての人々、地域、自治体にとって大いに参考になるものであり、今後の日本の図書館のあり方にも多大な示唆を与えるものと言える。

図書館情報

図書館名 恵庭市立図書館	URL http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/	開館 1992年7月30日
所在地 北海道恵庭市恵み野西5丁目10-2	開館時間 【火・金・土・日】 10:00～17:00	建物構造 鉄筋コンクリート造平屋一部2階建
TEL 0123-37-2181	【水・木】 10:00～20:00	敷地面積 9,520㎡
FAX 0123-37-2184	休館日 【月・祝】	建物延面積 2,801㎡

図書館の特長及び概要

概要

恵庭市は、北海道の札幌市と新千歳空港のほぼ中間にある人口68,469人(平成20年3月末現在)の市です。自然に恵まれ、交通の便が良いことから、人口も年々増加し、活発な企業進出、良好な住環境の整備が進み、田園都市として発展をとげてきました。近年では、「花のまち・ガーデニングのまち」として全国的に知られるようになりました。四季折々の彩りが美しい日本庭園と隣接する市立図書館は本館と2分館で構成され、乳児から高齢者まで年代を超えた交流が盛んに行われています。

つなげよう ひろげよう 育てよう 子どもが本と出会うまち

学校や地域で想像力や表現力、また人とのコミュニケーションが上手にできるよう、誕生間もない時期から義務教育を終えるまで「本と読書」を通じた子育て支援を推進しています。子どもの問題の予防策としての読書に注目し、地域を巻き込んだ子育て支援と読書力の向上とともに子どもたちが成長し、やがて次の世代を育てることを目指し取り組んでいます。

読書コミュニティのまちづくり

読書コミュニティとは、充実した読書環境のなかで、すべての市民が豊かな人間性を育むことができる地域の事です。恵庭市はこの実現に向け、全国に先駆けて実施したブックスタートで本と出会った乳児が幼稚園や保育園、学校図書館などで読書習慣を形成し、本に親しむことができるよう総合的・体系的に読書環境整備を進めています。2003年には図書行政の一元化を図るため市立図書館が学校図書館を所管し、その後小・中学校への学校司書配置や学校図書予算の大幅増額、全校一斉朝読書を行い、全市民的な読み聞かせ活動が活発に展開されています。乳幼児へのブックスタート及びブックスタートプラスをボランティアとの協働体制で実施するなど、市民の皆さんとともに子どもの幸せを願いながら、「子ども読書のまち」づくりに取り組んでいます。